

(2) 大会以後の情勢

大会を期として東支は、表面的にも過去の暗斗内紛から脱し得た。電氣局第二更生案樹立經過は二分三裂の状態を續けて来た従業員にとつては組合統一強化への動機となり拍車となつたと言ひ得やう。大会翌日の五日、新本部に依る執行委員会は前記の如く（大会記事参照）爭議部以下各部専門部長及副部長を決定して陣容の整備を圖つた。

其後當局は更生案に依る、乗客サービス改善を圖つて、電車、自動車業務員従来の弊風を改めしめんとした。之に對し東支本部は直に通達を各支部宛發して、本部の見解を表示し、機械的なサービスや業務者用語に依つては眞実のサービス改善は圖り得ない、要は精神のなサービス、眞実なる態度を以て處し、市電業務員として市民の好感を求むべきであると示した。

更に當局の提案した、當局者及従業員兩派に依る乗客待遇改善委員會設置に對しては、本部執行委員會及本部電車部自動車部三派合同協議会に之に賛意を表し、唯委員選出方法に關して、原則として支部役員中より選任し、本部員は當然委員會に参加すべく、當局に

交渉することとした。

（註 十二月廿日當局方針通り選舉終了）

十一月十二日の本部執行委員會は、大会に於ける決議事項であつた財政確立委員會設置に關し協議し、左記十名を委員に選ば、一切を財務部に委嘱することとした。

電車部

村越喜一

須田菊次

菅原正松

遠田秀次

植木健平

自動車部

鶴淵英夫

電氣部

佐々木綱吉

軌工部

池田大吉

車庫部

鴨下四海

電力部

山本千太郎

以上

財務部長野平末松以下副部長及右十名の委員を以て組織され財政

確立委員會は、十一月十七日及二十九日の二回に亘つて調査研究

した。その結果によれば、當時の本部實収額を基礎としてみると

き、納入組合員總數は七千三百六十九人となつた。茲に改正案に依

り、本部費十銭として計上するときは、丁度總上よりの家賃其他を加

算して、總計七百四十万円九十銭の收入を計した。茲に改正案に依